

「二木立の医療経済・政策学関連ニューズレター」

2007年総目次（29～40号）

29号：2007.1.1(月)（全23頁）

1. 拙論：医療満足度の国際比較調査の落とし穴
（『社会保険旬報』No. 2302（2007年1月1日号）：44-51頁）
2. 拙論：拙新著『医療経済・政策学の視点と研究方法』を語る
（「二木教授の医療時評（その36）」『文化連情報』2007年1月号（346号）：24-25頁）
…本「ニューズレター」27号にも添付した、拙新著の「はしがき」の焼き直しです。
3. 最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介（その6）：10冊
4. 2006年発表の興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（その9）：5本
5. 私の好きな名言・警句の紹介（その25）－最近知った名言・警句

30号：2007.2.1(木)（全14頁）

1. 拙論1：「がん難民」の解消で5200億円の医療費削減??
（「二木教授の医療時評（その37）」『文化連情報』2007年2月号（347号）：22-24頁）
2. 拙論2：論争は冷静に行いましょう－濃沼論文への回答
（『社会保険旬報』投稿論文：2月1日号に掲載予定でしたが、編集部の判断で不掲載）
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算21回、2006年分その10：8論文）
4. 私の好きな名言・警句の紹介（その26）－最近知った名言・警句等

31号：2007.2.20(火)（全11頁）

1. 拙新著『介護保険制度の総合的研究』のはしがきとあとがき
 2. 私と濃沼氏との論争についての『社会保険旬報』の対応の続報
 3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算22回、2006年分その11：4論文）
 4. 私の好きな名言・警句の紹介（その27）－最近知った名言・警句等
- <研究と研究者のあり方><勇気と真実、賢さ><批判の禁じ手><年令と仕事><他>

32号：2007.4.1(日)（全11頁）

1. 拙論：介護保険と介護経営の将来を見通すための必読文献－滝上宗次郎さんの追悼
2. 大学院「入院」生のための論文の書き方・研究方法論等の私的推薦図書
（2007年度版、Ver 9）（別ファイル：07院本推薦.doc）
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
（通算23回、2007年分その1：4論文）
4. 私の好きな名言・警句の紹介（その28）－最近知った名言・警句等

33号：2007.5.1(火) (全15頁)

1. 拙論：医療制度改革と増大する医療ソーシャルワーカーの役割
－社会福祉教育の近未来にも触れながら
(「二木教授の医療時評(その40)」『文化連情報』2007年5月号(350号)：42-46頁)
2. 拙論：安倍政権の半年間の医療政策の複眼的評価
(「二木教授の医療時評(その41)」『文化連情報』2007年5月号(350号)：46-48頁)
3. 拙インタビュー：日本の医療の「2本柱」は維持される
(『日経メディカル』2007年4月号(第473号)：78頁)
4. 最近出版された医療経済・政策学関連図書(洋書)のうち一読に値すると思うものの紹介(その7)：7冊
5. 私の好きな名言・警句の紹介(その29)－最近知った名言・警句等

34号：2007.6.1(金) (全15頁)

1. 拙論：医療改革－敢えて「希望を語る」
(『日本医事新報』2007年5月26日号(No. 4335)：77-80頁)
2. 拙論：終末期医療費についてのトンデモ数字
(「二木教授の医療時評(その42)」『文化連情報』2007年6月号(351号)：26-28頁)
3. 拙論：最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算23回。2007年分その2：10論文)
4. 私の好きな名言・警句の紹介(その30)－最近知った名言・警句等

35号：2007.7.1(日) (全20頁)

1. 拙講演録：世界の中の日本の医療と今後の医療改革－医療者の自己改革と「希望」を中心に(2007年6月17日NPO法人みんなの歯科ネットワーク設立記念シンポジウム・基調講演)
2. 拙書評：野村拓『時代を織る－医療・福祉のストーリーメイク』かもがわ出版, 2007
(『看護実践の科学』26(8):102,2007.7.1)
3. 最近出版された医療経済・政策学関連図書(洋書)のうち一読に値すると思うものの紹介(その8)：6冊
4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算24回。2007年分その3：6論文)
5. 私の好きな名言・警句の紹介(その31)－最近知った名言・警句

36号：2007.8.1(水) (全15頁)

1. 拙論：「基本方針2007」と「規制改革推進3カ年計画」を読む
(「二木教授の医療時評(その44)」『文化連情報』2007年8月号(353号)：28-32頁)
2. 拙論：厚労省「医療政策の経緯、現状及び今後の課題について」を読む－「医療提供体制の改革のビジョン」と比べながら
(「二木教授の医療時評(その45)」『文化連情報』2007年8月号(354号)：32-34頁)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算25回. 2007年分その4 : 5論文）

4. 私の好きな名言・警句の紹介（その32）－最近知った名言・警句

37号 : 2007.9.1(土) (全13頁)

1. 拙論：日本の医療費水準は主要先進国中最下位なことが確定

（「二木教授の医療時評（その46）」『文化連情報』2007年9月号（355号）：32-33頁）

2. 最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介（その9）：7冊

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算26回. 2007年分その5 : 6論文）

4. 私の好きな名言・警句の紹介（その33）－最近知った名言・警句

38号 : 2007.10.1(月) (全16頁)

1. 拙論：認知症ケアのビジネスモデルを考える－「コムスン処分」の意味にも触れながら（『月刊／保険診療』2007年9月号（62巻9号）:97-101頁）

2. 拙論：厚生労働省が医療費・医師数抑制政策の軌道修正を考え始めた？

（「二木教授の医療時評（その47）」『文化連情報』2007年10月号（356号）：36-38頁）

3. 拙論：映画「シッコ」を観てアメリカと日本の医療について考えた

（「二木教授の医療時評（その48）」『文化連情報』2007年10月号（356号）：38-40頁）

4. 私の好きな名言・警句の紹介（その34）－最近知った名言・警句

39号 : 2007.11.1(木) (全15頁)

1. 拙論：福田政権の医療政策の方向を読む

（「二木教授の医療時評（その49）」『文化連情報』2007年11月号（357号）：30-32頁）

2. 拙論：医療ソーシャルワーカーの国家資格化が不可能な理由

（「二木教授の医療時評（その50）」『文化連情報』2007年11月号（357号）：32-37頁）

3. 拙新著『医療改革－危機から希望へ』（勁草書房）の目次・はしがき・あとがき
（別ファイル：07勁ハカキ.doc）

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算27回. 2007年分その6 : 6論文）

5. 私の好きな名言・警句の紹介（その35）－最近知った名言・警句

40号 : 2007.12.1(土) (本文22頁＋年間総目次16頁)

1. インタビュー：医療政策転換にかすかな兆し 2つの閣議決定見直しが焦点

（『週刊東洋経済』2007年11月3日号111頁。インタビュー「日本の医療政策を問う」）

2. インタビュー：潮目が変わって医療改革に「希望の芽」が－『医療改革－危機から希望へ』の出版にあたって』（『文化連情報』2007年12月号（357号）：6-13頁）

3. 最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介（その10）：10冊

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算28回、2007年分その7：8論文）

5. 私の好きな名言・警句の紹介（その36）－最近知った名言・警句

補. 「ニューズレター」年間総目次（29～40号）（別ファイル：07NL目次.doc, 16頁）

－医療経済・政策学関連の洋書・英語論文の目次、名言・警句の人名索引付き。

「二木立の医療経済・政策学関連ニュースレター」2007年（29～40号）

最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介 2007年目次：合計39冊

29号：2007.1.1(月) その6：10冊

○『健康と医療の経済学（第5版）』（Folland S, et al: The Economics of Health and Health Care Fifth Edition. Pearson Education, 2007, 607 pages（実際の出版は2006） [中級教科書]

○『喫煙の価格』

(Sloan FA, et al: The Price of Smoking. The MIT Press, 2004, 313 pages) [研究書]

○『症例数・アウトカム [の因果関係] とそのアメリカ医療市場へのインパクト』

(Seider H: Volume-Outcome and Its Impact on U.S. Health Care Markets. Nomos, 2006, 246 pages) [研究書（博士論文）]

○『感染症の経済学』（Roberts JA (ed.): The Economics of Infectious Disease. Oxford University Press, 2006, 386 pages) [研究論文集]

○『医療の経済評価のための意志決定モデル』（Briggs A, et al: Decision modelling for health economic evaluation. Oxford University Press, 2006, 237 pages) [初級教科書]

○『医療技術 [評価] の [大] 問題—現代医療システムのための政策的含意』

(Lehoux P: The Problem of Health Technology- Policy Implications for Modern Health Care Systems. Routledge, 2006, 266 pages) [研究書]

○『医療における最新諸技術—挑戦、改革とイノベーション』

(Webster A (ed.): New Technologies in Health Care - Challenge, Change and Innovation. Palgrave, 2006, 275 pages) [研究論文集]

○『医療におけるイノベーション—リアリティ・チェック』（Casebeer A, et al

(ed.): Innovations in Health Care - A Reality Check. Palgrave, 2006, 301 pages) [研究論文集]

○『医療の信頼性の危機—原因、結果および治療法』

(Shore DA (ed.): Trust Crisis in Health Care - Causes, Consequences, and Cures. Oxford University Press, 2007（実際の出版は2006）, 209 pages) [概説書]

○『ニュー・レイバー [ブレア政権] の医療政策—政治経済学、公共政策および国民保健サービス』（Paton C: New Labour's State of Health - Political Economy, Public Policy and the NHS. Ashgate, 2006, 169 pages. [研究書]

33号:2007.5.1(火) その7：7冊

○『医療経済学 [論文選] —世界経済への批判的視点』

(Culyer AJ (ed.): Health Economics - Critical Perspective on the World Economy. Routledge, 2006 (Volume 1-3) -2007 (Volume 4), 545+450+386+600 pages) [研究論文集]

○『医療の経済分析』（Morris S, et al: Economic Analysis in Health Care. John Wiley & Sons, 2007, 400 pages) [中級教科書]

○『医療経済学—医療産業 [分析] のための原則と手法』

(Getzen TE with Allen B: Health Care Economics - Principles and Tools for the Health Care Industry. John Wiley & Sons, 2007, 356 pages) [入門的教科書]

○『医療経済・財政学[第3版]』(Getzen TE: Health Economics and Financing Third Edition. John Wiley & Sons, 2007, 458 pages) [入門的教科書]

○『規範的医療経済学-費用便益分析への新しい実用的接近、数学的モデルとその応用』(Islam SMN, et al: Normative Health Economics - A New Pragmatic Approach to Cost Benefit Analysis, Mathematical Models and Application. Palgrave, 2006, 345 pages) [理論書]

○『臨床試験の経済評価』(Glick HA, et al: Economic Evaluation in Clinical Trials. Oxford University Press, 2007, 244 pages) [概説書]

○『肥満の経済学(医療経済学と医療サービス研究の進歩 第17巻)』

(Bolin K, Cawley J (Ed.): The Economics of Obesity. Advances in Health Economics and Health Services Research Vol 17. Elsevier, 2007, 364 pages) [研究論文集]

35号:2007.7.1(水) その8: 6冊

○『医療の公私ミックス』(Maynard A ed.: The Public-Private Mix for Health Care. Radcliffe Publishing, 2005, 318 pages) [研究書(国際比較研究)]

○『信頼だけでは足りない-人権を医療に組み込む』

(Rothman DJ, Rothman SM: Trust Is Not Enough - Bringing Human Rights to Medicine. New York Review Books, 2006, 213 pages) [研究書(事例研究)]

○『NHS [イギリス国民保健サービス]の裏切り-医療解体』

(Mandelstam M: Betraying the NHS - Health Abandoned. Jessica Kingsley Publishers, 2007, 317 pages) [概説書(一般読者向け)]

○『NHS株式会社-NHSの民営化』(Pollock AM: NHS plc - The Privatisation of Our Health Care. Verso, 2004, 271 pages) [概説書]

○『[イギリスの]将来の保健医療組織・制度』(Dawson S, et al, ed.: Future Health Organizations and Systems. Palgrave, 2005, 310 pages) [研究論文集]

○『アメリカと日本の医療の諸問題』

(Wise DA, Yashiro N(八代尚宏), ed.: Health Care Issues in the United States and Japan. The University of Chicago Press, 2006, 258 pages) [研究論文集]

37号:2007.9.1(土) その9: 7冊

○『応用[計量]医療経済学』(Jones AM, et al: Applied Health Economics. Routledge, 2007, 335 pages) [上級教科書]

○『効率、公正、および医療-医療における稀少性の哲学的考察』(Denier Y: Efficiency, Justice and Care: Philosophical Reflections on Scarcity in Health Care. Springer, 2007, 301 pages) [研究書(哲学)]

○『メディケア定額払いとアメリカ医療の形成』(Mayes R, Berenson RA: Medicare Prospective Payment and the Shaping of U.S. Health Care. The Johns Hopkins University Press, 2006, 246 pages) [研究書(歴史研究)]

○『アメリカの医療規制-複雑さ、対決、及び妥協』(Field RI: Health Care Regulation in

America: Complexity, Confrontation, and Compromise. Oxford University Press, 2007, 336 pages)
[研究書]

○『アメリカの医療政策入門ーアメリカの医療の組織、財政、提供 [制度] 第2版』(Barr DA: Introduction to U.S. Health Policy: The Organization, Financing, and Delivery of Health Care in America. The Johns Hopkins University Press, 2007, 303 pages) [初級教科書]

○『[イギリスの] 医療政策を理解する』(Baggott R: Understanding Health Policy. The Policy Press, 2007, 276 pages) [研究書要素もある教科書]

○『[医療] パフォーマンスの測定ー改善の加速』(Institute of Medicine: Performance Measurement :Accelerating Improvement. The National Academiies Press, 2006, 357 pages) [報告書]

40号:2007.12.1 (土) その10 : 10冊

○『カナダにおける保健医療サービスの再構築ー新しい根拠と新しい方向』(Beach CM, et al: Health Services Restructuring in Canada - New Evidence and New Directions. Institute for Research on Public Policy, 2006, 378 pages) [研究書 (医療政策)]

○『医療へのアクセス、公正へのアクセスーカナダにおける民間医療保険についての法的論争』(Flood CM, et al (Ed.): Access to Care, Access to Justice: The Legal Debate Over Private Health Insurance in Canada. University of Toronto Press, 2005, 611 pages) [研究書 (医療政策)]

○『保健医療、技術と社会ー社会学的評論』(Webster A: Health, Technology and Society - A Sociological Critique. Palgrave, 2007, 212 pages) [研究書の概説書]

○『[高齢者の] 在宅ケアの管理・統治ー国際比較』(Burau V, et al: Governing Home Care - A Cross-National Comparison. Edward Elgar, 2007, 224 pages) [研究書 (国際比較)]

○『ヨーロッパの介護労働(ケアワーク)ー最近の理解と今後の方向』(Cameron C, Moss P: Care Work in Europe - Current Understandings and Future Directions. Routledge, 2007, 170 pages) [研究書 (国際比較)]

○『比較医療政策 第2版』(Blank RH, Burau V: Comparative Health Policy Second Edition. Palgrave, 2007, 284 pages) [入門的教科書]

○『保健医療についての定性的・定量的根拠の合成ー方法論の手引き』(Pope C, et al: Synthesizing Qualitative and Quantitative Health Evidence - A Guide to Methods. Open University Press, 2007,210 pages) [中級教科書]

○『危機に立つ [アメリカ] 医療ー消費者主導 [医療] 運動批判』

(Jost TS: Health Care at Risk - A Critique of the Consumer-Driven Movement. Duke University Press, 2007, 265 pages) [研究書]

○『セカンド・オピニオン [もう1つの改革案] ーアメリカ医療の救出』(Relman AS: A

○『アメリカの医療制度入門 第6版』(Jonas S, et al: An Introduction to the U.S. Health Care System Sixth Edition. Springer Publishing Company, 2007, 308 pages) [初級教科書]

「二木立の医療経済・政策学関連ニュースレター」2007年(29～40号)

最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文目次 :合計62論文

訂正 : 「ニュースレター」 34,35,36,37,39号中の「通算」回数が誤っていたので直しました
(34号は本来「通算24回」なのに23回と誤記し、以後39号まで誤記が続いていました)。

29号(2007.1.1)

4. 2006年発表の興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(その9):5本

○「医療の費用、アクセス、質についてのアメリカの世論」

(Blendon RJ, et al: Americans' views of health care costs, access, and quality. Milbank Q
84(4):623-657,2006) [世論調査の総説]

○「医療組織の効率性分析の市場」

(Hollingsworth B, et al: The market for efficiency analysis of health care organization. Health
Economics 15(10):1055-1059,2006) [評論]

○韓国の病院閉鎖の決定因子：階層一般線形モデルの使用

(Noh M, et al: Determinants of hospital closure in South Korea: Use of a hierarchical generalized
linear model. Social Science & Medicine 63(9):2320-2329,2006. [量的研究])

○「病院はどのくらい遠いのか？病院閉鎖の医療アクセスへの影響」

(Buchmueller TC, et al: How far to the hospital? The effect of hospital closure on access to care.
Journal of Health Economics 25(4):740-761) [量的研究]

○「脳卒中医療の成績を改善するための患者の集中—アメリカ都市部に於ける患者数を基準にした方法の含意」

(Votruba ME, et al: Redirecting patients to improve stroke outcomes -
Implications of a volume-based approach in one urban market. Medical Care
44(12):1129-1136,2006) [量的研究]

30号(2007.2.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算21回。2006年分その10:8論文)

○「イギリス、デンマーク、オランダの時間外診療：新しい諸モデル」

(Grol R, et al: After-hours care in the United Kingdom, Denmark, and the Netherlands: New
Models. Health Affairs 25(6):1733-1737,2006) [文献レビュー]

○「ヨーロッパでの医療の民営化：8カ国調査」

(Maarse H: The privatization of health care in Europe: An eight-country analysis. Journal of Health
Politics, Policy and Law. 31(5):981-1014,2006) [概説]

○「統合サービスネットワーク：[カナダ] ケベック州の事例」

(Fleury MJ: Integrated service network: the Quebec case. Health Services Management.
19(3):153-165,2006) [文献レビューと事例研究]

<以下、医療費・長期ケア費用の実証分析の5論文>

○「医療費の増加：高齢化の脅威の再検討」(Dormont B, et al: Health expenditure growth:
Reassessing the threat of ageing. Health Economics 15(9):947-963,2006) [量的研究]

- 医療費の集計と測定 (Getzen TE: Aggregation and the measurement of health care costs. Health Services Research 41 (5):1938-1958,2006) [文献レビュー]
- 「人口高齢化がヨーロッパの長期ケアに与える影響といくつかの潜在的な政策対応」 (Saltman RB, et al: The impact of aging on long-term care in Europe and some potential policy responses. International Journal of Health Services 36(4):719-746,2006) [概説]
- 「死亡前1年間の医療費—オランダの事例」 (Polder JJ, et al: Health care costs in the last year of life - The Dutch experience. Social Science & Medicine 63(7):1720-1731,2006) [量的研究]
- 「メディケアとメディケイド重複受給者の死亡前 [1年間の総] 費用」 (Liu K, et al: End of life Medicare and Medicaid expenditures for dually eligible beneficiaries. Health Care Financing Review 27(4):95-110,2006) [量的研究]

31号(2007.3.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算22回. 2006年分その11:4論文)**

- 「QALY [質を調整した生存年] は意志決定者の役に立つか？」 (McGregor M, et al: QALYs Are they helpful to decision makers? Pharmacoeconomics 24(10):947-952,2006) [評論]
- 「メディケア『病院比較』中のパフォーマンス指標と死亡率との関連」 (Werner RM, et al:Relationship between Medicare's Hospital Compare performance measures and mortality rates. JAMA 296(22):2694-2702,2006) [量的研究]
- 「自宅または施設での死亡—死亡診断書を用いた死に場所に関連する要因の探索」 (Cohen J, et al: Dying at home or institution - Using death certificates to explore the factors associated with place of death. Health Policy 78(2-3):319-329,2006) [量的研究]
- 特集：OECD『医療の質国際指標』 (International Journal for Quality in Health Care 18(Supplement 1), September 2006)

32号(2007.4.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算23回. 2007年分その1:4論文)**

- 「真の健康対回答スタイル：健康の自己評価が国により違う原因の探求」 (Juerges H: True health vs response styles: exploring cross-country differences in self-reported health. Health Economics 16(2):163-178,2007. [量的研究])
- 「医療費の増加 [要因]：アメリカは他のOECD加盟国とどう違うのか？」 (White C: Health care spending growth: How different is the United States from the rest of the OECD? Health Affairs 26(1):154-161,2007) [量的研究]
- 「[ベビー] ブーマー [の高齢化] が始まる：人口高齢化がアメリカの傷病大分類別医療費に与える影響を推計する医療費モデル」 (Martini EM, et al: The boomers are coming: A total cost of care model of the impact of population aging on health care costs in the United States by major practice category. Health Services

Research 42(1):201-218,2007.) [量的研究 (シミュレーション)]

○「福祉国家 [レジーム] は重要だ：豊かな諸国の類型学的マルチレベル解析」

(Welfare state matters: A typological multilevel analysis of wealthy countries. Health Policy 80(2):328-339,2007) [量的研究]

34号(2007.6.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算24回. 2007年分その2:10論文)

<健康の自己評価 (主観的健康) と医療への信頼 (3論文) >

○「ヨーロッパ諸国における [主観的] 健康の違い」 (Olsen KM, et al: Health differences between European countries. Social Science & Medicine 64(8):1665-1678,2007) [量的研究]

○「医療への市民の信頼：ドイツ、オランダ、イングランド・ウェールズの比較」

(van der Schee E, et al: Public trust in health care: A comparison of Germany, the Netherlands, and England and Wales. Health Policy 81(1):56-67,2007) [量的研究]

○「ソーシャルキャピタル、医療制度への信頼および健康の自己評価：[スウェーデンでの] ポピュレーションスタディにおける医療へのアクセスの役割」 (Mohseni M, et al: Social capital, trust in the health-care system and self-rated health: The role of access to health care in a population-based study. Social Science & Medicine 64(7):1373-1383,2007) [量的研究]

<医療の質と成果に基づく支払い (7論文の一口紹介。断りのない限り、米国の研究) >

○「病院医療の質改善における [各病院の医療の質の] 公開と成果に基づく支払い [との関連]」 (Lindenauer PK, et al: Public reporting and pay for performance in hospital quality improvement. New England Journal of Medicine 356(5):486-496,2007) [量的研究 (比較試験)]

○「メディケアの診療パターンと成果に基づく支払いへの含意」

(Pham HH, et al: Care patterns in Medicare and their implications for pay for performance. New England Journal of Medicine 356(11):1130-1139,2007) [量的研究 (実態調査)]

○「成果に基づく支払いと [各医師の] 質スコア公開に対する内科医の意見」 (Casalino LP, et al: General internists' views on pay-for-performance and public reporting of quality scores: A national survey. Health Affairs 26(2):492-499,2007) [量的研究 (アンケート調査)]

○「質改善運動が医療の他の [評価対象外の] 側面の質に与える影響—予期せぬ結果の法則？」 (Ganz DA, et al: The effect of a quality improvement initiative on the quality of other aspects of health care - The law of unintended consequences? Medical Care 45(1):8-18,2007) 。 [量的研究 (比較試験)]

○「成果に基づく支払い—最近の支払いトレンドは医療を改善するか？」

(Rosenthal MB, et al: Pay-for-performance - Will the latest payment trend improve care? JAMA 297(7):740-743,2007) [評論]

○「質改善の努力のある程度の成功」

(Katz-Navon T, et al: The moderate success of quality of care improvement efforts: three observations on the situation. Intl J Quality in Health Care 19(1):4-7,2007) [評論]

○「費用削減をめざすガイドラインの医療の質への含意の法的考察」

(Calens S, et al: Legal thoughts on the implication of cost-reducing guidelines for quality of health

care. Health Policy 80(3):422-431,2007) [評論]

35号(2007.7.1)

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算25回. 2007年分その3:6論文)

○公的医療制度における公私ミックスの最適化においてイデオロギーが果たす大きな役割
(Williams A: The pervasive role of ideology in the optimization of the public-private mix in public healthcare systems. In: Maynard A ed.: The Public-Private Mix for Health Care. Radcliffe Publishing, 2005, pp.7-19) [理論研究] < 4 で紹介した2005年出版の単行本所収 >

○病院のIT投資の評価：ガバナンス [営利・非営利の違い] により違いは生じるか？

(Parente ST, et al: Valuing hospital investment in information technology: Does governance make a difference? Health Care Financing Review 28(2):31-43,2006-2007) [量的研究]

○医師 [開業医] の診療収入と診療におけるIT利用 [との関係の検討]

(Furukawa MF, et al: Physician practice revenues and use of information technology in patient care. Medical Care 45(2):168-176,2007) [量的研究]

○アメリカの医療経済学者の所得 (Cawley J, et al: The earnings of U.S. health economist.

Journal of Health Economics 26(2):358-372,2007) [量的研究]

○「保健医療統合提供システム (IDS) の組織デザイン：理論と実際」

(Lega F: Organizational design for health integrated delivery systems: Theory and practice. Health Policy 81(2-3):258-279,2007) [理論研究]

○一般神経内科病棟での急性期脳卒中医療費：脳卒中病棟との比較

(Epifanov Y, et al: Costs of acute stroke care on regular neurological wards: A comparison with stroke unit setting. Health Policy 81(2-3):339-349,2007) [量的研究]

36号(2007.8.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算26回. 2007年分その4:5論文)

○糖尿病予防目的で耐糖能障害の男女のライフスタイルに介入するのは費用効果的である

(Lindgren P, et al: Lifestyle intervention to prevent diabetes in men and women with impaired glucose tolerance is cost-effective. International Journal of Technology Assessment in Health Care 23(2):177-183,2007) [量的研究 (シミュレーション研究)]

○病院から地域への医療サービスのシフト：質と効率に与える根拠のレビュー (Sibbald B,

et al: Shifting care from hospitals to the community: a review of the evidence on quality and efficiency. Journal of Health Services Research and Policy 12(2):110-117,2007) [文献レビュー]

○死の直前の不平等？ [スウェーデンにおける] 社会経済的階層の違いによる死亡前1年間の公的医療費 [の格差]

(Hanratty B, et al: Inequality in the face of death? Public expenditure on health care for different socioeconomic groups in the last year of life. Journal of Health Services Research and Policy 12(2):90-94,2007) [量的研究]

○ジェンダー平等化の促進は男女の健康格差を収斂させるか？スウェーデンの自治体を対象にした研究 (Backhans MC, et al: Does increased gender equality lead to a convergence of

health outcomes for men and women? A study of Swedish municipalities. *Social Science and Medicine* 64 (9):1892-2903,2007) [量的研究]

○韓国における低所得者と慢性疾患患者の医療費自己負担

(Ruger JP, et al: Out-of-pocket healthcare spending by the poor and chronically ill in the Republic of Korea. *American Journal of Public Health* 97 (5):804-811,2007) [量的研究]

37号 (2007.9.1)より

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算27回. 2007年分その5:6論文)

○メディケア医療費の [高額医療費患者への] 集中の長期トレンド

(Riley GF: Long-term trends in the concentration of Medicare spending. *Health Affairs* 26 (3):808-816,2007) [量的研究]

○将来の医療 [費] を逆計算する : 死亡までの期間モデルを用いて死亡前有病率の変化と人口高齢化が医療費に与える影響を明らかにする

(Payne G, et al: Counting backward to health care's future: Using time-to-death modeling to identify changes in end-of-life morbidity and the impact of aging on health care expenditures. *The Milbank Quarterly* 85 (2):213-257,2007) [文献レビュー]

○メディケアとメディケイド重複受給者の死亡前1年間のナーシングホーム利用 (Liu K,

et al: Nursing home use by dual-eligible beneficiaries in the last year of life. *Inquiry* 44 (1):88-103,2007) [量的研究]

○ [スウェーデンにおける] 終末期 [(死亡前3カ月間)] の医療サービス利用

(Jakobsson E, et al: Utilization of health-care services at the end-of-life. *Health Policy* 82 (3):276-287,2007) [量的研究]

○モラルハザードと消費者主導医療 : 根本的に誤った概念

(Geyman JP: Moral hazard and consumer-driven health care: A fundamentally flawed concept. *International Journal of Health Services* 37 (2):333-351,2007) [評論]

○ナーシングホーム利用におけるモラルハザード [は存在しない]

(Grabowski DC, et al: Moral hazard in nursing home use. *Journal of Health Economics* 26 (1):560-577,2007) [量的研究]

39号(2007.11.1)

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算28回. 2007年分その6:6論文)

○ドイツの全国高血圧治療プログラムとその費用、余命、および費用対効果に与える影響の推計 (Gandjour A, et al: A national hypertension treatment program in Germany and its

estimated impact on costs, life expectancy, and cost-effectiveness. *Health Policy* 83 (2-3):257-267,2007) [量的研究 (シミュレーション研究)]

○費用と [ケアの] 質 [との関係] : [カナダ] オンタリオ州の長期ケア病院で得られた証拠 (Wodchis WP, et al: Cost and Quality - Evidence from Ontario long term care hospitals.

Medical Care 45 (10):981-988,2007) [量的研究 (重回帰分析)]

○「高齢者包括的ケアプログラム（PACE）」のプログラム特性と利用者のアウトカム
(Mukamel DB, et al: Program characteristics and enrollees' outcomes in the Program of All-Inclusive Care for the Elderly (PACE). The Milbank Quarterly 85 (3):499-531,2007) [量的・質的研究]

○理学療法士が実施する急性腰痛治療において、推奨された治療ガイドラインの遵守はケアの質を改善するか？

(Fritz JM : Does adherence to the guideline recommendations for active treatments improve the quality of care for patients with acute low back pain delivered by physical therapists? Medical Care 45 (10):973-980,2007) [量的研究]

○世界の諸国民は自己の健康状態に満足しているか？

(Clifton J, et al: Are citizens of the world satisfied with their health? Health Affairs. Published online 17 July 2007;10.1377/hlthaff.26.5.w545) [量的研究]

○市場と医療：アメリカ、1993-2005年

(White J: Markets and medical care: The United States, 1993-2005. The Milbank Quarterly 85 (3):395-448,2007) [医療政策研究（総説）]

40号(2007.12.1)

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算29回. 2007年分その7:8論文)

○人口高齢化と医療費－「人の注意をそらすもの」学派？

(Werblow A, et al: Population ageing and health care expenditure: A school of "red herrings"? Health Economics 16 (10):1109-1126,2007) [量的研究]

○人々はどこで死んでいるか－アメリカ人の死に場所に影響する要因を理解するためのマルチレベル・アプローチ (Gruneir A, et al: Where people die - A multilevel approach to understanding influences on site of death in America. Medical Care Research and Review 64 (4):351-378,2007. [文献レビューと量的研究（重回帰分析）]

○メディケアの死亡者の患者特性と終末期【死亡前1年間】の医療利用【との関連】－1989年と1999年の比較

(Sydney M, et al: Patient characteristics and end-of-life health care utilization among Medicare beneficiaries in 1989 and 1999. Medical Care 45 (10):926-930,2007) [量的研究]

○脳・脊髄損傷前後の破産リスク－氷山の一角の一瞥

(Hollingworth W, et al: The risk of bankruptcy before and after brain or spinal cord injury - A glimpse of the iceberg's tip. Medical Care 45 (8):702-711,2007) [量的研究]

○成果支払い導入後のイングランドのプライマリケアの質【の変化】

(Campbell S, et al: Quality of primary care in England with the introduction of pay for performance. New England Journal of Medicine 357 (2):181-190,2007) [量的研究]

○選択が【イギリスのNHS病院の入院】待ち期間に与える影響の実証的研究

(Siciliani L, et al: An empirical analysis of the impact of choice on waiting times. Health Economics 16 (8):763-779,2009) [量的研究]

○医療技術評価の優先順位の設定：最近実際に用いられている方法の体系的レビュー

(Noorani HZ, et al: Priority setting for health technology assessments: A systematic review of current practical approaches. International Journal of Technology Assessment in Health Care 23(3):310-315,2007) [国際調査研究]

○アメリカにおける1980～2000年の冠動脈疾患死亡減少の説明

(Ford ES, et al: Explaining the decrease in U.S. deaths from coronary disease, 1980-2000. New England Journal of Medicine 356(23):2388-2398,2007) [量的研究]

「二木立の医療経済・政策学関連ニューズレター」2007年（29～40号）

「私の好きな名言・警句の紹介」2007年分 人名索引

注：カッコ内は「ニューズレター」の号数。各行ごとに「ニューズレター」掲載順。外国人は姓のみ（ただし例外あり。例：シャーロックホームズ）。映画・テレビドラマ・芝居のセリフはその名称（「」表示）。2005,2006年に紹介したものの再掲分は一部略。

あ行

大谷竹次郎(29),赤池弘次(29),上杉隆(29),大内講一(29),岩本真弥(29),オルテガ(29),江崎玲於奈(30),宇沢弘文(30),明川哲也(30),乙川優三郎(30),大田光(31),忌野清志郎(31),伊坂幸太郎(31),アズナブル(31),池内了(32),江見康一(32),アンドロフ(32),岡田忠(33),浅野史郎(33),尾関章(33),伊藤進(33),植木等(33),井上ひさし(33),井上鑑(33),岡本信明(34),小山内美智子(34),イニヤリトウ(34),小田島雄志(35),アラゴン(35),イチロー(35),有田理恵(35),内田義彦(36),東照二(36),小笠原嘉康(36),大江健三郎(36),オシム(37),江田五月(37),小田実(38),オリーリー(38),印出順彦(38),内館牧子(38),岡本太郎(39),荻野アンナ(39),上田敏(39),赤平守(40),落合博満(40)

か行

コレア(29),小宮山栄(30),クリース(30),ゲーテ(30),ゴア(31,40),ケストナー(31),黒井千次(31),上川徹(32),工藤恭孝(32),上川あや(32),君原健二(32),金子和雄(33),キング(33),郷ひろみ(34),コペルニクス(34),桂歌丸(34),加藤周一(35),小宮隆太郎(35),加藤信吾(36),キング(36),カストロ(36),川上憲伸(37),「哀しみはノックもせずにやってくる」(37),古賀誠(37),加藤登紀子(38),海部宣男(38),ケインズ(38),岸信介(38),北川隆吉(39),「ガリレオ」(40)

さ行

サイド(29,40),瀬古利彦(32),三遊亭円楽(32),菅野晴夫(34),榊原英資(34),篠原三代平(34),シュイナード(35),鈴木公子(35),諏訪哲史(36),坂井聡樹(36),堺屋太一(37),サムエルソン(38),佐藤紀子(39),佐藤勝彦(40),下河原孝(40),酒井順子(40)

た行

豊田泰光(29,30,37),竹元真樹(29),田辺聖子(30),哲(31),立花隆(31),田尾安志(31),津山直一(32),都香鑄(ド・ヒャンホ.32),利根川進(33),高藪縁(34),為末大(34),田中秀征(36),高野和明(37),所ジョージ(37),谷川俊太郎(38),筑紫哲也(39),武川正吾(39),ドーキンス(39),竹内まりや(39),田岡俊次(39)

な行

ニーチェ(30),野村万作(30),中新井邦夫(30),中丸新将(30),野村克也(31,40),南原繁(31),長野士郎(31),津本陽(31),トーリ(31),ナーグラ(32),野村拓(34),中村雅俊(35),中曾根康弘(36),西村博之(37),西垣通(37),長妻昭(38),西山卯三(39),野口定久(39),長井健司(39),野中広務(40)

は行

ハサウェイ(29),フレンチ(29),東尾修(29),日垣隆(30),ピナード(30),浜六郎(31),ペロシ(31),張本勳(31),ブラインダー(32),堀江敏幸(32),別宮貞徳(32),原田早穂(32),広岡達朗(33),ハーマン(33),ハルバースタム(34),坂東眞理子(34),「ハンニバル・ライジング」(34),

長谷川敏彦(35),ハマトン(36),蓮實重彦(37),福岡伸一(37),ひろゆき(37),藤井裕久(37),プランク(38),パーカー(39),バロウズ(39),「HERO」(39),バットエンドーフ(39),ブラウステイン(40),ヒルティ(40)

ま行

幕内雅敏(29),松坂大輔(29),森田広一郎(30),牧野富太郎(31),森村誠一(31),マンロー(31),真崎知生(32),村上陽一郎(32),村松静子(32),村口史子(33),宗本智之(33),耳塚寛明(33),モーム(34),三浦知良(34),ミュラー(34),松原隆一郎(36),村上春樹(36),宮沢喜一(36),宮本延春(37),榎原敬之(37),宮本顕治(37),ムーア(38),松本幸四郎(38),ミリキタニ(38),舛添要一(38),松尾智子(39)

や行

山田洋次(29),ヤーノシュ(32),吉行淳之介(32),矢沢永吉(34),養老孟司(37),山下泰裕(38),横峯良郎(38),山崎武(39),山中伸弥(40)

ら行

「ラブソングができるまで」(34),ロビンズ(40)

わ行

若倉雅登(31),渡辺捷昭(31),渡部昇一(32),渡辺格(33),鷺田清一(36),渡部恒三(37),若月俊一(38),若宮啓文(39)

